様へ

説明看護師(外来)

看護師(病棟)

月日	月日		月 日	月 日	
経過	治療前日(入院日)	当日術前	当日術後	術後 1 日目	
目標	心身ともに安定した状態 治療に対する不安を表出		術後合併症を起こさない 出血がない 疼痛が自制内で経過する		
検査	身長、体重測定			採血 レントゲン撮影	
食事	※朝食はご自宅で(いつも通りの形態) 入院後流動食 夕食後絶食、21 時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用		受帰室4時間後より 屋より 五分粥食開始 水分開始		
	* 4				
処置・観察	します(退院日まで) 弾性ストッキングの	点滴の針を留置します 朝 浣腸します 時間になれば、 看護師が手術室に ご案内します	手術後以下の挿入物、装 着物があります ・酸素カニューラ →術後3時間で取り ・小電図モニター ——— ・点滴の管 — ・尿道カテーテル —	→取り外します →取り外します →取り外し、排尿を 確認します ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります				
点滴	対持参薬、お薬手帳を看護師にお渡しください			以下を服用します ・緩下剤	
内服	以下を服用します ・昼→200mlの下剤 ・眠前→下剤	手術室で点滴を 開始します (手術が午後の場合は、 病棟で点滴を開始 します)	以下の点滴を行いま ・持続点滴 ・抗菌薬 ——— ・鎮痛剤 ———	→	
行動・	シャワー浴 洗髪をします	以下の手術準備をし ・手術着に着替え ・弾性ストッキンク ・入れ歯、アクセサ		午前中 全身清拭し、手術着からパ ジャマに着替えます	
リハビリ	† 制限はありません		<mark>≥ </mark> 翌朝までベッド上 安静です	付き添いのもと、歩行を開始 します 尿道カテーテル抜去後は トイレで排尿できます	
	医師・麻酔科医より ・治療計画について ・手術について ・麻酔について	J説明(外来又は入院時)	● 医師より説明● 手術結果について		
説明	病棟・手術室看護師・入院生活について・手術について	市より説明 ○(パスシートを使用)	看護師より説明 ・術後の注意点について ・安静について		
	薬剤師より説明・持参薬確認・使用薬剤について	5	・下肢運動について ・痛み止めの使用方法に ついて		

* 入院に際してこの用紙を必ずお持ちください。

st s

*この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともありますので、予めご承知ください。

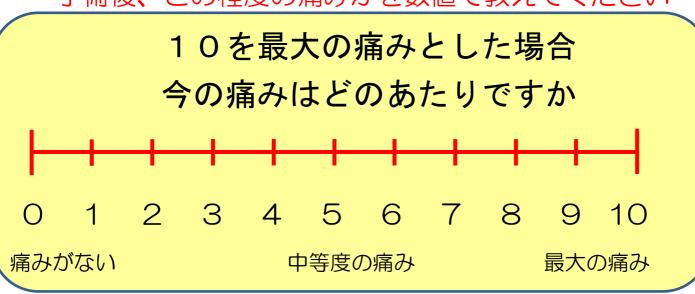
月日	月日	月 日~ 月 日	月 日	月 日			
経過	術後2日目	術後3~4日目	術後5日目	術後6日目(退院日)			
目標	退院後の生活に不安がない						
検査		シレントゲン撮影					
食	五分粥食	朝より全粥食	朝より常食	退院日は朝食のみ			
事		\(\text{M}\)					
処置・				退院時にリストバンドを 外します			
観 察	創部を観察、処置を 行います ―――			-			
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります						
注射・内服	以下を服用します ・緩下剤 ・鎮痛剤						
行 動 •	創部の治癒状況に合わせてシャワー浴を再開します (週3回、病棟毎で日が異なります)						
リハビリ	制限はありません			☆ (退院日) 朝食後退院です			
説明				主治医より説明 ・退院後の治療計画、療養上の留意点について 「退院後の療養生について ・退院後の療養生について			
				(退院療養計書を お渡しします)			

手術後の傷の痛みを教えてください

講習を受けた麻酔科医・看護師・薬剤師・臨床工学士で構成された <u>術後疼痛管理チーム(APS)チーム</u>が、患者さんの傷の痛みに対し て、手術前から計画を立て、<u>傷の痛みが軽減するよう</u>取り組んでま いります。

実際の傷の痛みに対して、NRS(Numerical Rating Scale):痛みの評価スケールを使用します。0 から 10 までの 11 段階です。

手術後、どの程度の痛みかを数値で教えてください



APS チームがサポートします。 よろしくお願いします。

